

## 「ウイーン訪問記」訂正・補遺

H. Y.

夫に今読んで貰いました所、長いと呆れていました。そして重要な間違いを指摘されました。オペラ座のオーケストラから精鋭がウイーンフィルのメンバーに選ばれるのだそうです。あくまでウイーンフィルの母体がオペラ座のオーケストラだそうです。逆でした。失礼しました。

ウイーンには見るべき所が沢山あります。その中で、今回風邪ひいて行けなかったのがハイリゲンシュタットです。旅行好きの従弟が推薦してくれたのですが、場所をネットで調べていてたどり着いたのがベートーヴェンの「ハイリゲンシュタットの遺書」と今日呼ばれている弟達宛の手紙です。結局は送られないままに終わった手紙だそうです、20代で耳の病を発症した際に書いたものです。Kindleで無料で読めるのですが、胸に迫るものがあります。

先生はロマン罗兰の「ジャンクリストフ」を読まれましたか？ノーベル文学賞受賞の主たる理由だと言われている大作ですが、ベートーヴェンがモデルだそうです。私はKindleの二巻目で残念ながら挫折中です。その他、ロマン罗兰はベートーヴェンの評伝も書いています。後半の曲解説の部分は難しいので走り読みで飛ばしましたが、とても興味深いものでした。親族に恵まれず、病に苦しみ、故郷のライン河に思いを馳せ続けた苦勞の多い彼の人生を垣間見る思いです。憎き甥っ子め!!

友人は学生時代の音楽教室の影響で、ベートーヴェンがイケメンだと信じて疑わなかったようです。私の話は友人の夢を壊したようです。落胆ぶりについ笑ってしまいましたが、申し訳ないとも思いました。

晩年のベートーヴェンはシリアス過ぎるとウイーンっ子に飽きられ、ロッシェニなどが流行ったりしたそうです。ウイーンは軽薄な街でもあったようです。

ロッシェニについて音大卒の友人達から教えてもらったのですが、若い作曲家達の出現により限界を感じ、早い時期に筆を折ったロッシェニは、食通でも有名で、第二の人生はイタリアレストランなどの経営者。大成功したそうです。フランス料理でロッシェニ風とついたお料理はこの元作曲家の開発したメニューのようです。フォアグラが入っているそうです。召し上がりましたか？

最後に Vienna pass のご紹介です。現地でこれを購入すると、殆どのアトラクションが無料の上、fast track です。即ち、入場券の長い列に並ぶことも無く、各施設一回だけですが入れます。サービスの一つに観光地の近くにあるバス停で自由に乗り降り出来る hop on hop off bus というものがあります。これは3系統あり、とても便利です。私達はシェーンブルン宮殿にもこれを使ってバスで行きました。

ウクライナ戦争が終わってエアチケットが安くなったら、1か月位滞在したいねと言いながら、貯金するつもりですが、この年では足腰が大いに不安。健康第一ですね。

## 「ウイーン訪問記」訂正・補遺 2

H. Y.

暖かいコメント有難うございました。先生にお手数お掛けして申し訳なかったです。ベルベデーレ美術館に観光客が殺到する理由はクリムト作品。中でもお目当ては当然ながら「KISS」。でももし現在でも「黄金のアデーレ」の展示があればもっともっと素晴らしかったらと思う。そして映画に描かれたオーストリア政府の役人達の傲慢さに腹立たしいです。どこの国でも役人達は権威を振り翳し慇懃無礼なのですね。

絵画奪還裁判で活躍した若い弁護士もユダヤ系で、音楽家シェーンベルグのお孫さん。ユダヤ人の優秀さと過酷な歴史。そして極悪非道なナチス。そんなナチスと手を組んだ日本。怠っていた歴史の勉強の必要性を強く感じました。

所でシェーンブルン宮殿の一部はホテルになっていたり、賃貸住居になっているそうです。ご存じでしたか？数年前 TV で放送されてビックリしました。宝塚歌劇団が「エリザベート」公演をしたのがご縁で、初演時の主演がリーヴァイさんのご自宅を訪問したのです。

でも夏の離宮であるシェーンブルン宮殿。冬はとても寒いので暖房が大変。きっと住みにくいだろうと思います。我々が訪ねた 11 月ですらグロリエッテも、敷地内の電車も休止中でした。

グロリエッテの二階からは美しいウイーンの街が見渡せるそうです。シェーンブルン宮殿のオリジナルはもっと小さい建造物で、現在グロリエッテのある場所に建てる計画だったそうです。

3 度目のウイーンだった夫の目的の一つはグロリエッテのカフェでの休憩でした。2 度目の私は当時の権力者の気分になってウイーンを眺めたかったのです。せめて池の所までは行こうと寒さにも負けず坂を登りました。当然ながら池もお休みに噴水が止まっていました。ガッカリ。記念写真だけ撮りました。

## 「ウイーン訪問記」訂正・補遺 3

H. Y.

思い間違いがありました。友人から指摘を受けたのですが、正しくは、ロッシェニは、ヴェルディの出現で自らの限界を悟り、オペラの作曲を完全にやめたそうです。しかし宗教音楽などは作っているそうです。